

SJクイズ

[問題編]

Q₁

2024年の自転車（第1・2当事者※）の交通事故件数は10年前（2014年）と比べ約38%減少しています。相手当事者別にみた場合、対歩行者の事故件数は10年前と比べて、どのような状況になっているでしょう？

- ①減少している ②変わらない ③増加している

※第1当事者は交通事故の当事者のうち、過失が最も重い者または過失が同程度の場合は被害が最も軽い者。
第2当事者は過失がより軽いか、過失が同程度の場合は被害がより大きいほうの当事者

Q₂

2024年の自転車対歩行者の事故件数を事故類型別にみると、対面通行中（歩行者が自転車と対面して道路を通行）と背面通行中（歩行者の後方から自転車が進行）で約半数を占めています。対面通行中と背面通行中で多いのはどちらでしょう？

- ①対面通行中 ②背面通行中

Q₃

自転車通行可の歩道で通行すべき部分が指定されていない場合、自転車は歩道のどの部分を通行しなければならないでしょう？

- ①どこを走っても良い ②車道寄り ③車道から遠い側

【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL: 03(5412)1736

SJ クイズ ?

[解答・解説編]

Q

1

解答

③増加している

<解説>

2024年の自転車の交通事故件数は6万7531件と、2014年の10万9269件から約38%減少している。しかし、相手当事者を歩行者に限ると、2014年の2551件から2024年は3043件に増加している。

二輪車や四輪車との事故においては被害者となることが多い自転車だが、歩行者との事故では自転車は加害者となる。自転車利用者は車両の運転者という意識を持ち、歩行者のいる場所を通行する時は十分に注意しなければならない。

●自転車の交通事故件数と自転車対歩行者の交通事故件数の推移
(2014~2024年)

出典：警察庁資料

Q

2

解答

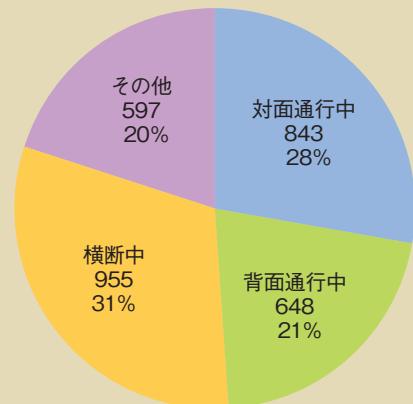
①対面通行中

<解説>

2024年の自転車対歩行者の交通事故件数を事故類型別にみると、対面通行が843件と、背面通行の648件を上回っている。

対面通行では、お互いが見ていることもあり、「相手が避けてくれるだろう」と思い込みがちである。歩道では歩行者が優先であることを意識し、自転車は徐行してほしい。また、歩行者が立ち止まってしまうなど、その通行を妨げないように自転車のほうが一時停止しなければならない。一方、歩行者もスマートフォンを注視せず、前方をよく見て歩いてほしい。

●自転車対歩行者の事故類型別交通事故件数(2024年)



出典：警察庁資料

Q

3

解答

②車道寄り

<解説>

自転車は車道通行が原則だが、歩道に自転車通行可の標識がある場合は歩道を通行することができる。道路交通法では、歩道に通行すべき部分が指定されていない時は、中央より車道寄りの部分を徐行しなければならないと定められている。

ただし、歩道は歩行者のためのものである。歩行者がいる場合は徐行する必要がある。そして、歩行者が多い時は降車して自転車を押して歩くことが望ましい。

【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業(株) 安全運転普及本部 TEL:03(5412)1736